

## 2024年頭所感



一般社団法人日本アルミニウム協会  
会長 水口 誠  
(株式会社神戸製鋼所 副社長執行役員)

新年あけましておめでとうございます。年頭のご挨拶を申し上げます。

先ず始めに、新年早々北陸地方を襲いました能登半島地震により、被災された方々やそのご親族の皆さまに心からお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表します。被災された地域の日も早い復旧をお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、ウクライナやパレスチナでの戦火は収まる様子もなく、連日の暗いニュースに心を痛める日が続きました。一方で、将棋の藤井聡太竜王が史上初の八冠独占、スポーツ界では、WBCでの日本の優勝に始まり、男子バスケットボールやラグビー・ワールドカップでの日本の活躍、大リーグの大谷翔平選手が日本人初の本塁打王となるなど、明るいニュースもありました。

経済情勢に目を向けましても、行動制限の解除や、外国人旅行客が戻ったことなどにより、インバウンド需要を始め日本経済は活況を取り戻しつつあり、日経平均株価は約33年ぶりに3万3千円を超えました。

一方、アルミを始めとする軽金属業界は、去年は総じて言えば厳しい一年でしたが、後半に掛け国内自動車生産が回復したことに伴い、自動車向けのアルミパネル材や押出材が大きなプラスとなりました。

本年は、引き続き需要環境が好転することを期待しております。自動車材は引き続き好調を継続するものと思われ、建設分野でも、関東圏でのオフィスビル再開発の進展や、大阪・関西万博におけるインフラ整備などにより、アルミ需要の高まりが期待されます。また、半導体製造装置向けについても、

次世代半導体製造工場の国内での新設や、世の中の技術革新に伴って、必ず需要は増加すると思います。缶材も、SDGsに代表される環境志向の高まりにより、リサイクル率が高く、環境に優しいアルミ缶の需要は長期的には伸長するものと考えております。

アルミ業界といたしましては、昨年大きく2つのことに取り組んでまいりました。一つは、政府が掲げる「2050年カーボンニュートラル」、すなわち脱炭素社会の実現に向けて、アルミニウムの国内資源循環の促進などによるCO2排出抑制を進めることです。

新地金を使用したアルミ展伸材と比較し、リサイクルアルミを使用した場合のCO2負荷はわずか1/30です。リサイクルアルミの使用率を増やし、循環させることでCO2削減に大きく寄与します。しかしながら、近年、低炭素資源であるアルミスクラップの輸出が急増しており、2022年で約44万トン、CO2換算で実に470万トンもの貴重な国内低炭素資源が海外に流出しております。

当協会ではアルミ資源の国内循環利用を促進するため、昨年6月に「サーキュラーエコノミー委員会」を設立し、アルミ資源循環に係る技術開発や設備導入、標準の策定、循環の仕組み作りなどについて、検討を開始いたしました。委員会では活発に議論が進められており、業界としての方向性が定まりつつあると考えております。

もう一つは、サプライチェーンを通じた価格転嫁の取り組みです。原燃料など諸物価の高騰による影響と価格への転嫁状況を把握するため、一昨年に続き、昨年12月に会員企業に対してアンケートを実施しました。前回と比較し進展はしているもののまだまだ価格転嫁が進んでいない実態が明らかになりました。今後もフォローアップしたいと考えております。

アルミニウムはリサイクル性に優れ、CAN to CANに代表される水平リサイクルが実現している数少ない素材です。リサイクルアルミを使用した場合のCO2負荷は極めて小さく、アルミニウムの利用拡大により、社会全体のCO2排出抑制に大きく寄与できると考えます。

皆様のご健勝とご活躍、また、2024年は昇り龍のように、アルミニウムの需要が大きく回復し、活気のある一年となることを祈念いたしまして、私の年頭の挨拶といたします。

以 上